

<全体分析>

試験時間 60分

<p>解答形式 マーク式50問 (語句選択22問 正誤判定27問 年代整序1問) 記述式8問 論述式1問(30字) 合計59問</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・<u>変化なし</u>・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・<u>変化なし</u>・<u>やや難化</u>・難化)</p> <p>大問数6題、小問数59問は変化なし。正誤判定問題が1問増加し、記述式が1問減少した。正誤判定問題は昨年同様に「すべてマークせよ」の形式が出題され、「2つマークせよ」の形式は出題されなかった。</p> <p>出題の特徴 大問と時代の構成は例年通り、1が古代、2が中世、3が近世、4～6が近現代である。史料問題と正誤問題が多いことが商学部の特徴である。論述問題のテーマは、経済分野から出題されることが多い。</p> <p>その他トピックス 特になし。</p>

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	語句選択 正誤判定	弘仁格式序文と律令 《史料》	未見史料ではあるが、設問は平易なものが多かった。問Gは1の判断が難しく、やや難。	やや易
2	語句選択 正誤判定 年代整序	戦国大名と分国法 《一部史料》	問Bはやや難。選択肢の単語の意味と、空欄の前後関係から判断したい。問Hは難。	やや難
3	語句選択 正誤判定	天明の打ちこわしと天譴論 《一部史料》	問Bは難。問Iはやや難。「歴代将軍がみな」という部分に注目して正解にたどりつきたい。問Jはやや難。寛政の改革時の尊号一件から光格天皇を想起したい。	やや難
4	語句選択 正誤判定	樺太千島交換条約と琉球処分 《史料》	全体として易しい問題が多く、ここで得点を稼ぎたい。	易
5	語句選択 正誤判定 記述	I 明治～昭和初期の産業と恐慌 II 明治時代の教育政策	昨年に続き明治時代の教育が出題された。正誤問題も丁寧に選択肢を検討して正解にたどり着きたい。	易
6	語句選択 正誤判定 記述 論述	高度経済成長期の社会問題と石油危機	問Bは難。問Cは早稲田大学商学部受験生であれば正解したい。問Fは「すべてマークせよ」の形式なので難。問Gは難。問Iはやや難。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>むやみに知識量を増やすような学習では合格レベルに達しない。合格レベルに達するには入試問題の形式・難度を知るために過去問研究を行う必要がある。一般的に受験生が苦手とする正誤判定問題や論述問題での得点力をアップさせるため、用語暗記にとどまらない、出来事の背景・理由や結果・影響などについて理解を深める学習を心がけよう。さらに論述問題対策として、近現代の経済分野を中心に、日頃から簡潔かつ論理的に内容をまとめる練習を積極的に行おう。また、得点の差が付きやすい文化史分野についても早い段階から学習を進めておこう。近年の戦後史は終戦直後～高度経済成長期が頻出であり、今後も注意が必要である。</p>
